

令和8年度 学校評価書（共通） 前期

校名 宇和島市立御槇小学校

1 自己評価書

教育目標 確かな学力を持ち、地域を愛するたくましい児童の育成					
基本方針		(1)個性の尊重と伸長を基盤とし、地域の自然や人々とのかわり合いを通して、豊かな心を育み、心身ともにたくましい児童の育成に努める。 (2)児童・保護者・地域から信頼される、安心で温もりのある学校づくりに努める。 (3)基礎的・基本的な知識・技能の定着を図るとともに、個々の児童の可能性を最大限に伸ばし、生活や学習上の困難を改善・克服するための適切な指導や支援に努める。			
本年度重点目標		(1) 家庭や地域と連携した、地域とともにある学校づくりの推進 (2) 生きる力を育むための特色ある学校経営の推進 (3) 現職教育の充実と活性化			
評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価
確かな学力の定着と向上	①	全国学力・学習状況調査及び市標準学力調査の活用	各調査の分析結果を基に、「身に付けさせたい力(学習の目標)」の明確化を図り、組織的に推進することができた。	・分析資料の作成 ・具体的な対策の実施	後期のみ
	②	授業改善	主体的・対話的で深い学びの実現に向け、授業モデル「N見方・考え方を変える」を視点に授業改善に努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	A
			文章を正確に読み取る、情報を整理・活用するなど読解力の育成に努めた。	・教師アンケート ・児童生徒アンケート	A
		一人1台端末やEILS(コンテンツバンク)の活用により、個別最適な学びを推進したり学習内容の定着を図ったりした。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	A	A
			・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	A	A
		家庭学習の充実	家庭との協働により、授業と連動させた家庭学習の充実に努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	B
			・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	A D B	B
	④	読書活動の充実	読書に対する関心や意欲が高まるような取組や声掛けを積極的に行った。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	A B A
	⑤	ふるさと学習及びESDの推進	社会や地域の課題解決や活性化に向けた活動及び調べ学習等を通して、地域に対する誇り・愛着の醸成や、持続可能な社会を創造しようとする児童生徒の育成に努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	A B A
			(成果と課題) 個別最適な学びを目指し基礎学力の定着に努めた結果、概ね良好の成果を収めることができている。家庭学習については、個別に対応したり、家庭に協力を求めたりしてきたが、改善の余地がある。校内の読書活動においては、朝読書に意欲的に取り組んでいるが、家庭読書の習慣化には至っていない。		
			(改善策等) 家庭学習については、その意義を確実に伝え、意欲を持たせることで習慣化へとつなげる。量を適正に判断し、個別に対応していく。読書活動については、興味のある本を購入するなど本に親しめる環境づくりを行う。また、学校だよりやホームページで積極的に発信するなど、保護者にも関心を持っていただけるよう呼び掛ける。		
評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価
生徒指導の充実	①	規範意識の向上	規範意識を高めるための共通理解、共通実践に努め、児童生徒の行動規範が高まってきた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	A
	②	児童生徒の健全育成	児童生徒に寄り添った対応を行うとともに、児童生徒同士の人間関係づくりや仲間意識に支えられた集団づくりの推進に努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	A
			不登校の未然防止や状況改善に向けて、校内体制の整備と早期対応に努め、チームとして不登校対応に取り組んだ。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	A
		いじめの未然防止、早期発見に努めるとともに、迅速且つ適切な初期対応や組織的な対応等により、いじめの早期解決に努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	A	A
			・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	A A A	A
		関係機関との連携	スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラー、こども支援教室わかたけ等の積極的な活用を心掛けた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	A A A
			自己肯定感を涵養する取組の工夫・改善を具体的に行った(自分にはいいところがある)。	・教師アンケート ・児童生徒アンケート	A A
	④	自己肯定感 等	自己有用感(人の役に立っている)や達成感を醸成する取組により、子どもの意識に変化が見られた。	・教師アンケート ・児童生徒アンケート	A A B
			(成果と課題) 交流活動や体験活動により、誰かの役に立っていることや支え・支えられている実感を持つことができ、それが自己肯定感や自己有用感の向上につながっている。異学年の友達の良さを見付けたり、紹介し合ったりする活動を継続してきたが、保護者の評価を見ると、仲間意識に支えられた集団には至っておらず、改善の余地がある。		
			(改善策等) 引き続き、頑張っていることや努力していることを認め励まし、温かい言葉掛けをすることで児童の自己肯定感・自己有用感を高める。後期は、大きな学校行事を予定している。スモールステップで目標を設定させ達成できた喜びを体感させていくとともに、集団やチームを意識した活動を取り入れ、集団に支えられた仲間づくりを行う。		

<評価基準> A 目標を達成 B 8割以上達成 C 6割以上達成 D 6割未満

評価項目	評価小項目		評価の観点	評価資料	評価	評価
働き方改革	①	ワーク・ライフ・バランス	時間外勤務が月80時間を超える教職員ゼロを目指し、校内で設定した業務改善施策を基に、組織的な働き方改革(ワーク・ライフ・バランスの向上)に努めた。	・教師アンケート	A	A
				・「出勤・退庁調査」の分析と活用	A	
	②	働きやすい環境づくり	「何でも相談し合える雰囲気づくり」「経験の浅い教職員を皆で支える雰囲気づくり」など、温かく働きやすい職場づくりに努めた。 休業日の設定を含めた計画的な課外活動や部活動等の適切な運営がなされた。	・教師アンケート	A	A
				・教師アンケート	A	A
	③	他の教職員のサポート体制の充実	教職員同士が仕事を助けしたり、スクールサポートスタッフ、地域人材などを積極的に活用したりして、職場の仕事のサポート体制が充実した。	・教師アンケート	A	A
	(成果と課題) 小規模校のため一人一人の業務量が多いことが懸念されるが、互いに声を掛け合いフォローし合える体制が構築されているため、働きやすい環境が整っている。若手教職員が多く、ベテラン教職員に負担を掛けないように一人一人が全体を見ながら業務に当てる必要がある。					
(改善策等) 任された校務分掌に責任を持って業務に当たるが、負担に感じるときは周りを気遣うことなく声を出し、全教職員でサポートし合うことで負担軽減を図っていく。また、長期的な視野を持ち、優先順位を付けて効率的に業務に当てるよう心掛ける。さらに、保護者や地域の方との連携を強化し、業務負担の軽減に努める。						
評価項目	評価小項目		評価の観点	評価資料	評価	評価
地域との連携	①	学校運営協議会の活性化	全教職員に対して、学校運営協議会の役割・目的の周知徹底に努めた(校内体制)。 学校運営協議会・地域学校協働活動の活性化(地域・保護者へ)を図り、熟議等の結果を基に、地域の力を学校運営に生かすよう努めた。	・教師アンケート	A	A
				・教師アンケート	A	
				・保護者アンケート	A	
				・地域アンケート	A	
	②	情報発信	家庭や地域に対して、教育活動に関する情報を、文書やホームページ等で積極的に発信した。	・教師アンケート	A	A
				・保護者アンケート	A	
				・地域アンケート	A	
	③	来校・相談体制	来客・電話対応を丁寧に、保護者や地域の方々的心声をしっかりと聞くことで、来校しやすく、相談しやすい体制・雰囲気づくりに努めた。	・教師アンケート	A	A
				・保護者アンケート	A	
				・地域アンケート	A	
(成果と課題) 学校だよりやホームページの更新を定期的に行っているため、良い評価が得られている。また、保護者や地域住民との会話を大切に、相談しやすい体制が構築されつつある。学校運営協議会の熟議で出された意見を、積極的に教育活動に組み込んでいきたい。						
(改善策等) 引き続き、保護者や地域住民の思いを組み取りながら学校運営に反映させていく。学校と家庭・地域に相乗効果が見られる活動を模索し、学校も地域も元気になれる取組を行う。						

<評価基準> A 目標を達成 B 8割以上達成 C 6割以上達成 D 6割未満